

教務部(総務課)

<p>本年度方針</p>	<p>① 学校業務が能率的にかつ円滑に運営されるよう図る。 ② 諸会議が能率的に機能するよう図る。 ③ 定数確保に向けた生徒募集活動を展開する。 ④ 国際交流を推進する。</p>		
<p>具体的な計画の目標・評価方法</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<p>行事や校時に合わせたチャイム・スクールバス・パン販売の運営・連絡を行う。</p>	<p>A</p>	<p>◆スクールバスの運行予定、パン販売、チャイムについて日課に合わせた事前連絡を忘れることなくできた。</p>	<p>◆引き続き情報の把握と事前連絡を怠らず進めていきたい。 ◆18時下校に伴うスクールバスの運行を検討する</p>
<p>行事の有無や警報発令時の対応などについて、教職員・生徒・保護者への連絡を確実に行う。</p>	<p>A</p>	<p>◆年間を通して、行事の実施や学級閉鎖時等の連絡など滞りなくメールの配信ができた ◆メール配信に合わせ、ホームページにも掲載することができた。</p>	<p>◆メール配信システムへの登録者を全校生徒・保護者まで拡充させたい</p>
<p>主な行事に関する総括を行い、次年度への引き継ぎとする。</p>	<p>A</p>	<p>◆年間を通じて行事の総括を行い、職員会議等で報告することができた。</p>	<p>◆ペーパーでの報告にとどまらず、FirstClass等にアップするなど、全教職員が閲覧できるよう準備したい</p>
<p>日常業務に関する連絡を、予定黒板とFirstClassにより確実に教職員に伝える。</p>	<p>A</p>	<p>◆ほぼ毎日、その日の連絡事項の内容をほぼ誤りなくFirstClassにまでアップすることができた。</p>	<p>◆朝の打ち合わせに出られない教職員にFirstClassを確実に見ていただけるような方法を考えたい</p>
<p>学年主任会議・運営委員会・職員会議を機能的に運営する。</p>	<p>C</p>	<p>◆中間評価を活かせず、議題の整理がうまくできなかった。特に、独立実施となった学年主任会議では、学年間の情報交換に終始し、テーマを設けて議論する時間がほとんど取れなかった。</p>	<p>◆次年度は全学年主任が運営委員会に入ることになったが、学年主任会議も独立して行うのがよいかと考える。</p>
<p>中学入試志願者500名以上に向け、本校のアピールと募集活動に全力で臨む。</p>	<p>C</p>	<p>◆結果的に、志願者を目標数集めることができず、329名にとどまった。 ◆限られた説明会の中で本校をアピールしたが、児童・保護者に十分に伝えることができなかった。 ◆全校体制の取り組みになっているか？</p>	<p>◆説明会でもっと多くの生徒に協力を得て、話だけではなく生徒を見てもらう機会を増やす。 ◆本校のアピールとして、日常の実践に全教職員が改めて意識的に取り組むことが求められると思う。</p>
<p>語学研修を充実させ、国際交流を推進する。</p>	<p>B</p>	<p>◆引率教員の公募など、特定担当者専従からの脱却に向けて動き始めた。</p>	<p>◆引率教員の1人は今後も本事業とのかわりをもつようにしたい</p>
<p>図書室運営の充実に力を注ぐ</p>	<p>C</p>	<p>◆司書教諭・図書委員に任せきりとなってしまった。</p>	<p>◆教務部としての具体的ななかかわり方(仕事)を再考して取り組んでいきたい。</p>

<p>本年度方針</p>	<p>① 授業時間を確保する。 ② 成績処理を円滑に行う。 ③ 教育課程・教務内規の整備を行う。 ④ 公簿等の整理・保管を確実にする。 ⑤ 備品の節約に努める。</p>		
<p>具体的な計画の目標・評価方法</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<p>ベル授業を推進して授業時間の確保を行い、振り替えを行うことで自習を極力少なくする。</p>	<p>B</p>	<p>◆時間割変更が困難な場合があったが、可能な限り変更を行った ◆病気療養などに伴い、時間割の再作成を数回行った</p>	<p>◆ベル授業の推進 ◆単純な教育課程の編成と講座編成の工夫</p>
<p>新しいシステムにより迅速な成績処理・通知票作成を行い、指導要録まで反映させるシステムを構築する。</p>	<p>B</p>	<p>◆成績処理プログラムの導入に向けて業者と打ち合わせを行うことができた ◆成績処理プログラム導入のためのネットワークの構築とメンテナンスのための業者委託が必要</p>	<p>◆成績処理システム導入に向けた業者との打ち合わせと最終準備 ◆成績処理システム運用のための研修会の実施 ◆業者委託に向けた準備の開始</p>
<p>大学入試の情報も入手し、それに対応した教育課程を作成する。</p>	<p>B</p>	<p>◆新学習指導要領の変更に伴い教育課程の編成は早めに行ったが、大学入試科目の情報入手を待ちすぎ確定が年末になった ◆4年次の芸術以外選択を無くした文理共通の教育課程を作成することができた</p>	<p>◆新学習指導要領開始に伴い編成した教育課程の点検と平成26年度入学生教育課程の検討と編成 ◆医進・選抜コース設置に伴う3年次以降の教育課程について、特別なものを作成するか否かも含め検討が必要</p>
<p>履修や定期考査、評価にかかわる教務内規の整備を行う。</p>	<p>B</p>	<p>◆高等部の学年評定の算出方法を変更した ◆現在の教務内規と現状とのすり合わせを行い、見直しと整備の作業ができなかった</p>	<p>◆教務内規の見直しと整備作業を実施する</p>
<p>教科書・副教材の数を把握し、発注・配付まで確実に実行</p>	<p>B</p>	<p>◆学習指導要領の変更に伴い教科書も改訂されたため、早期使用も含め教科書の選定・注文の作業が煩雑になった</p>	<p>◆複数(教務・教科・学年など)で確認する制度をつくる</p>
<p>公簿等について、保管期間を確認して整理・保管・廃棄する。</p>	<p>C</p>	<p>◆作業ができなかった</p>	<p>◆帳簿などの保管管理場所を設定し誰にでも所在が分かるようにする</p>
<p>備品の把握を確実にし、無駄遣いを避ける取り組みを行う。</p>	<p>B</p>	<p>◆コピー用紙の使用枚数が印刷用紙の使用枚数を上回った。</p>	<p>◆ミスコピーの防止、試し刷りの励行、適正な印刷枚数設定で節約をする(古紙の再利用も含む) ◆印刷前のレイアウトや用紙設定の再確認励行</p>

教務部人権教育課

2012

本年度方針	三重県人権教育基本方針の趣旨を踏まえ、本校建学の精神「誠実で信頼される人に」と学校教育目標①教師全員が生徒を伸ばす教科指導の充実と評価」「②集団としての規律とルール・時間を守る自己コントロール力の育成」「③いじめや差別のない仲間づくりと命の教育の充実」のもと、学習指導、生徒指導、進路指導をはじめとするあらゆる場で、生徒の人権意識を高め、人権尊重の立場に立てる生徒を育成する。		
具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
人権アンケートの設問を吟味し、学級集団づくりに役立てられるように集計結果を取り扱う	B	4月の人権アンケートに続いて中等部では学校生活アンケートを実施。2学期に入って教室内の人間関係も変わってきた所でのアンケートで、新しい発見などもあり、学級運営の協力ができた。	次年度も内容変更を実施し、2学期に入ってから学校生活アンケートも今年度に引き続き実施していきたい。
「人権だより」を定期的に年間3回発行する 「教育相談だより」を年間3回発行する	B	人権だよりは三年制との調整不足のため、発行はできなかった。教育相談通信の発行は3回行った。	日常的に人権教育と教育相談を並行して行っているが、通信に関しては教育相談のみになってしまった。次年度は発行していきたい。
年間4回の人権ゼミナールを企画し、毎回教職員30名の参加をめざす	B	今年度は校内ゼミナールを3回と校外人権フィールドワークを1回実施した。(12月に行った少人数でのゼミナールも含む)中高合同での開催時期の設定が難しく参加者数は目標より少なめ。	6・3年制合同のため開催のタイミングが難しいので、今年度は回数を減らした。次年度も時期や内容のバランスも考え実施していきたい。
教育相談を充実させ、不登校生徒、教室に入れない生徒への関わりを強める	A	教育相談担当者がカウンセラーと学級担任、学年団に対するコーディネーターとしての役割を強め、調整役にまわったことで昨年度よりも連携がとれた。カウンセラーの負担を減らし業務に専念してもらえるようになった。	今年度も最も力を注いだ所で、人権室登校の生徒との関わりだけでなく、教育相談担当者のコーディネーターとしての役割を強めている。カウンセラーの負担も減り業務に専念してもらえるようになった。校外での研修も年間通して多くの事を学んだので次年度からも生かしていきたい。
生徒会人権委員会の活性化をはかる	B	前期は人権ポスター制作を全クラスで行い。ポスターを通じた人権啓発活動を行った。鈴青祭・文化の部ではバージョン掲示も行った。後期は各クラス人権委員が推薦する人権関連本の紹介誌を発行した。	時間の限られた時間の中で人権啓発活動を行うのは難しい面があるが、計画的に活動内容の説明と準備を行えば生徒は動いてくれる。できる範囲であればもっと活動したいと思う生徒も多くおり、これからも続けていきたい。
「子ども人権フォーラムすずか」など、他団体、他機関の活動に学ぶ機会を活用する	A	12月4日の人権フォーラムすずかに人権委員会3年生2名を引率し参加した。フォーラムでは生徒の熱心な参加により非常にうまくいった。	人権フォーラムすずかは私立学校の参加は本校だけなので、「公立中学校区との連携」は途切れることのないように続けていきたい。

<p>本年度方針</p>	<p>1. 「学びのある教室」の実現 押し付けではなく、内発的な学習意欲の喚起</p> <p>2. 。教科指導力の育成</p> <p>3. 6年間を見通した効果的な学習指導（カリキュラム）の定着</p> <p>①中等部では、特に言語運用能力の育成に焦点を当てた学習指導（英検準2級、2級取得者の増加を目指す）。</p> <p>②高等部では、（今年度4年生からスタートする）文理共通カリキュラムによる総合的な学力育成</p> <p>③進路指導部の目標達成のための学習指導法の確立</p>		
<p>具体的な計画の目標・評価方法</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<p>1. 「学びのある教室」の実現</p> <p>①全授業の公開</p> <p>②積極的な授業見学</p> <p>③授業検討会の定例化と充実</p> <p>※月例授業研究会は、主に、中等部の授業検討会とする。</p>	<p>B</p>	<p>①授業公開の意識は、かなり向上した。</p> <p>②この取り組みを始めて3年目になるが、授業見学の回数が減っている。月例授業研究会を「中等部の授業研究」に絞ったことで、そのための研究授業の見学がノルマ化され、自発的な授業見学が減ったとも考えられる。</p> <p>③今年度は「原則全員参加」でスタートした月例研究会であったが、年度中盤の参加者が少なかった。後半参加人数は多少持ち直したが、授業研究会の本来の目標が達成できたとは思えない。</p>	<p>学習指導部としてこの3ヶ年、「学びのある教室の実現」と、そのための「教科指導力の育成（向上）」を目標に、授業研究を軸とした取り組みを進めてきた。意識面での変化は多少芽生えた。授業の変化、行動の変化にむすびつけたい。</p> <p>昨年から、学習指導部の発展的廃止を提案してきたが、その理由は、理念の共有は出来つつある。自身のある授業公開・授業見学・授業研究は、目の前の生徒をどう育てるかである。各教員が所属する学年から作り上げていくのがベストである。6ヶ年の成果、学校としての教育につなげるには「学年主任レベルの縦のつながり（共有と引き継ぎ）」が不可欠である。</p> <p>次年度からの廃止が決定、あくまでも発展的廃止であり、これまでの取り組みを否定するものではない。次にこの学習指導部の役割を担うのは「学年主任会議であり、各学年団」である。組織図には、教務部に「学習指導」という業務がついているが、事務的な役割を担う部署と認識したい。</p>
<p>2. 教師力の育成</p> <p>①上記1. の取り組みによる日常的な切磋琢磨</p> <p>②教科会議の充実</p> <p>③外部機関との連携、校外研修の充実</p> <p>④年齢別定期研修制度の効果的な運用</p>	<p>B</p>	<p>①高等部（特に4、5年）での協同学習の実践が少ないのはなぜか？特に4年生は中等部で協同学習を経験している学年であり、教員にも実践経験があるはず。なぜ広がらないのか、その原因の追究が必要。</p> <p>②教員の力量アップがなかなか実感できない。優先順位を決め、具体的な取り組みが必要。</p> <p>③研究会、教員セミナー等への参加は例年並</p> <p>④今年度は見送り</p>	<p>この3年間掲げてきた学習指導部としての方針「1. 学びのある教室の実現、2. 教科指導力の育成、中等部全教室での協同学習の実践」は、次年度以降「学年主任会議または中等部、高等部の指導方針」として提案してもらいたい。また、月例授業研究会は各学年単位または中等部、高等部単位で規模を工夫して継続してもらいたい。</p>
<p>3. 6年間を見通した学習指導</p> <p>①学年主任会議の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任の連携 ・学年主任会議を軸とした組織作り <p>②教務、教科会議との連携を深めカリキュラムの充実と教科指導法の向上を図る。</p> <p>③進路指導部との連携により、大学・社会の最新情報を共有する</p>	<p>B</p>	<p>①学年主任会議は定期的開催でき、各学年の取り組み・問題は共有できたが、6ヶ年を見通した学年指導や学習指導の流れをつくることまでは行っていない。</p> <p>②新課程初年度の24期生の文理共通カリキュラムをスタートした。科目増の負担はあるが生徒は前向きに取り組んでいる。現行カリキュラムには「公民の時間不足」「地歴の選択方法」に問題があり、改善策を検討。</p> <p>③教科学力の追求だけでなく、生徒に付加価値をつけるための+αの学習指導（キャリア教育）が必要である。</p>	<p>この3年間掲げてきた学習指導部としての方針「1. 学びのある教室の実現、2. 教科指導力の育成、中等部全教室での協同学習の実践」は、次年度以降「学年主任会議または中等部、高等部の指導方針」として提案してもらいたい。また、月例授業研究会は各学年単位または中等部、高等部単位で規模を工夫して継続してもらいたい。</p>

生活指導部

本年度方針	1 基本的な生活習慣の確立		
	2 全職員による生活指導、見過ごさない指導の強化	3 建学の精神、学校目標・努力目標・教育諸実戦と密接に連携していく	4) 制服の正しい着用
1) 時間意識の確立	2) 校外・交通安全指導の徹底	3) 校外・交通安全指導の徹底	4) 制服の正しい着用
具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況（最終評価） 〔2月末〕	最終評価を踏まえた改善点・向上策
1) 時間を守らせる			
① 下校指導（追い出し、放送）	B	■5時半放送が徹底できなかった。各学年とも最終見回り指導を継続した。	■クラブ顧問の意識が必要。放送と、見回りの継続指導。
② ベル授業	A	■かなりよくなったが、体育の後がどうしても守れない。教員の意識がよくなってきている。	■より教師の意識が必要。
③ 遅刻者指導（職員室前）	A	■後数分での遅刻者が減らない。常習者への指導。	■ノーチャイムデーを増やすという案もある。丁寧に厳しい指導が必要。
④ 遅刻集計とその指導	A	■月一回集計表は出したが結果を踏まえての指導がで	■集計表を各クラスでもっと活用することが必要。
2) 校内外の美化			
① 清掃活動（指導点検）	B	■清掃箇所など明確に指示できた。階が違うなどの場合、指導困難であった。	■複数の点検箇所はやむをえないが同じ階にするとかの工夫が必要。
② 清掃活動（事前指導）	A	■一部、清掃の姿勢がよくない。	■低学年のうちに意識付けをさせる。
③ 清掃道具（配備状況）	B	■用具の点検がおろそかになりがちだ。	■紛失防止策としてネームを入れる。新館では今年度配備されたぼうきが壊れやすいため改善したい。本館の用具が不足しがちになるので補充していきたい。
④ 専門委員会との連携	A	■整備委員・美化コンクールなどで美化に努めた。	
3) 校外・交通安全指導の徹底			
① 登校指導（正門付近）	A	■概ね良好であった。あいさつを返してくれる生徒が増えた。自転車の駆け込みが危険。	■6年制の生徒が大半なので、できれば、我々6年制だけで指導できればよいと思われる。
② 登校指導（駅付近）	A	■事故なく、周辺での苦情もなくなったのはよかつ	■継続指導がまだ必要。
③ 一斉登校指導	A	■良好であった。月一回ということで地域にも浸透し、よいアピールになっている。	■一斉の合間で副担任での指導も考慮したい。また、立つポイントも精査したい。
④ 下校指導	C	■残る生徒も固定化している。	■周回指導が必要。
⑤ 自転車（指導・点検）	B	■良好であった。	■自転車の安全走行に関する講習会等の検討
⑥ 防災・防火・避難訓練	B	■あらゆるケースに備えての日ごろの準備が大切。	■マニュアル作成。家庭との連携
4) 制服の正しい着用			
① 身なり・服装指導	B	■徹底した指導ができなかった。	■職員間で同じスタンスでの指導が必要
② 頭髪指導	B	■一部の生徒で、順守できていない。	■月一回程度の点検も視野に。
③ 挨拶指導	B	■元氣よくあいさつできる生徒もいるが自発的にできる生徒は少ない。	■あいさつの意味をきちんと伝えることで、意識を少し変えたクラスもある。HR、授業、部活動などでもっと意識的に指導する必要がある。 ■共通認識と一斉実践の検討 ■いろんな機会に大きな声を出させて、もっと自然にできるような学校としたい。

生活指導部(保健)

2012

本年度方針	1. 自らの心身に關心を持ち、積極的に健康生活を送ることができる生徒を育成する 2. 自らを大切にするとともに、他者への思いやりや生命を大切にしようとする生徒を育成する 3. 建学の精神に則り、学校教育活動全体を通じて保健教育を行う 4. 教職員の心身の健康の保持増進に努める		
具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
①健康診断および事後措置の円滑な実施	A	適切に実施することができた。来年度の検診に備え、効率的・効果的な方法をさらに検討したい。	来年度の検診に備え、準備を進めたい。
②日常の救急処置を通しての保健指導および健康相談活動	A	適切に実施することができた。	救急処置に対する知識とスキル向上に努めたい。
③個々の生活の実態および健康状況の把握	B	保健調査票や合宿前の健康調査等をもとに、来室時に個人の健康状態や生活実態の情報収集に努めた。	日頃から情報収集に努めたい。来室者が多く個々と関わる時間が確保できなかった。養護教諭一人では対応しきれない。
④専門委員会活動を通しての自主的な健康増進活動および啓発活動	A	委員会の生徒は主体的によく頑張ってくれた。	生徒が主体的に活動できる場としたい。
⑤保健通信や各種パンフレットの配布による健康増進活動および啓発活動	B	生徒の実態に即したものの、興味のあるテーマをもっと研究していく必要がある。	健康情報の収集に努め、できる限りタイムリーな情報を提供できるようにしていきたい。
⑥学校環境衛生の整備および管理の徹底	B	引き続き積極的に取り組みたい。	生徒の学習能力向上に向けて環境整備に努めたい。
⑦保健学習(性教育・喫煙防止教育・薬物乱用防止教育など)への取り組み	B	2学期末に4年生に性教育を実施した。	学年に応じた内容、方法で実施したい。
⑧教育相談活動の充実(人権教育相談室との連携)	B	SCとこまめに情報交換を行っている。引き続き丁寧に対応していきたい。	こまめに情報交換を行い連携に努めたい。
⑨特別支援教育の推進	C	現状では教育相談と特別支援分野が重なっている。学年の先生たちの努力で乗り切っていると思うが、組織的なバックアップ体制がこれからは必要なのではないか。	バックアップの体制の整備について検討も必要である。
⑩学級担任をはじめ学校全体での密な連携	B	連携に努めた。	連携を密にし、丁寧にみていきたい。
⑪保護者・地域・各種専門機関との連携	C	具体的には何も取り組みなかった。	各種連携機関をうまく活用できるとよい。
⑫教職員の心身の健康保持増進(健康診断・産業医による健康相談・労働安全衛生委員会)	A	健康診断(人間ドック)受診率100%達成できた。	来年度も健康診断(人間ドック)受診率100%を目指す。
⑬教職員対象の救急法講習会の実施	C	具体的には何も取り組みなかった。	救急法の講習会の実施を検討していきたい。
⑭新型インフルエンザなどの感染症への対策	B	常に情報収集を行い引き続き予防に努めたい。	保健教育・保健管理の充実にも努めたい。
⑮大災害などの非常時に備え、救急体制を確立する	C	具体的には何も取り組みなかった。	救急体制・救急用品等、備えは十分にしておきたい。

本年度方針	生徒一人ひとりのニーズを満たすための幅広くかつきめ細かい進路指導 ◆生徒一人ひとりが個々の適性に合った進路選択ができるように努める ◆生徒一人ひとりの進路志望実現を目指し、それに必要な学力増進と進路意識の向上に努める		
具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
大学入試に向けたモチベーションアップにつながる様々な取り組み	A	各学年の発達段階に応じて内容を精査しながら、大学訪問、各大学別オープンキャンパス参加、各種ハイレベル模試受験、大学出前講義、卒業生との交流、進路講演会、進路HRなどに積極的に取り組むことができた。様々な取り組みを通して、生徒たちは大学や受験を身近に感じるようになり、進路意識の向上と入試に向けてのモチベーションアップにつながった。	低学年次からの意識付けが重要。次年度もそこに重点を置きたい。中3の名大京大訪問および東大OCツアーは次年度以降も継続実施予定。各大学による出前授業や外部講師による進路講話も、大学での学びを身近に感じ、進路意識の向上にもつながるので、予算との兼ね合いもあるが、次年度も計画を組んで積極的に実施していきたい。
中部3年間の進路指導の流れと進路学習教材「進路ノート」の活用法の確立	A	各学年ともにある程度進路シラバスに沿った形で進路指導を進めることができた。進路ノートについても年度年間計画に沿った形で活用することができた。やはりシラバスがあると取り組みやすい。また、進路ノートを他の教材や資料とリンクさせ、グループでの職業調べ、個人別の学問・職業調べやインタビュー発表を行うなど、より効果的な授業を考え実践した。	進路ノートは進路HRや道徳の充実、新学期スタート時の学級づくりなど様々な場面で活用できるので、シラバスの細かな修正を加えながら次年度以降も継続使用していく。進路ノートはすべてやりきるというスタイルではなく、導入当初の予定通り、今後も必要な部分を適宜抜粋して使用していくというスタイルで十分である。
職業体験・インターンシップ・キャリア教育等の充実	B	中3春の校外研修のトヨタテクノミュージアム・名古屋大学訪問、実施3年目を迎える中2冬の工場見学（ホンダ技研鈴鹿）は大きなトラブルもなく無事に終了。テクノミュージアムとホンダ技研鈴鹿は小学校の時に訪れた経験のある生徒が何人かいたようだが、年齢を重ねたことによる新発見や再発見がたくさんあったようで、再訪であったとしても大きな問題がないと思われる。	生徒が実際に仕事を体験できる機会をたくさん提供できればよいとは考えるが、現状を考えるとインターンシップ（職業体験）の企画・立案・実施はかなり難しく、どうしても今行っている「工場見学」中心の取り組みになってしまう。今後インターンシップの実施を本格的に検討していくならば、専属の担当者が最低1人は必要であろう。
各大学の推薦・AO入試内容の検討と効果的な使用法の検証	B	推薦の人数制限がある場合の3年生との調整もスムーズに進んだ。また、推薦内規を改定したため、これまで多くみられた推薦基準をめぐる保護者とのトラブルはまったくなくなった。指定校推薦も公表してはいるが大きな混乱は起きていない。	これまで通りあくまでも一般入試で勝負というスタンスは崩さないが、現在の入試制度を考えると、今後合格実績を伸ばしていくには推薦・AO入試の有効活用は必要不可欠である。ただ、推薦・AO入試には様々なリスクを伴うので、事後指導などに注意を払う必要があるが、次年度以降も特に難関大学を中心に推薦・AO入試を有効利用していきたい。
新課程入試に関する情報収集と対策の検討	B	国公立大学のセンター試験「数学」「理科」の科目の指定状況、および2次試験「数学」「理科」の出題科目・範囲は一部の大学を除いてほとんどの大学で発表された。反面、大学入試センターは2015年度の出題教科・科目と「理科」の4つの選択パターンは発表したが、「理科」の基礎科目と基礎なし科目との配点や実施時間等の違いなどの詳細はまだ発表していない。	センター試験「理科」の基礎科目と基礎なし科目にどのような差異が生じてくるかについて様々な推測がされているが、詳細等の正式な発表は次年度7月のセンター試験説明協議会のあたりになるとと思われる。今後も継続的に情報収集を行うとともに動向に注意し、カリキュラムの変更等が必要な場合は迅速に対処したい。
各模擬試験実施後の振り返りシートの活用	B	比較的スムーズに報告できた学年（模試）が多かった。提出する教科担当者を取りまとめをする進路担当者の意識次第で改善できる。遅すぎては意味がなくなってしまう。その後の活用をうまくできていない部分が見られた。	模試結果の職場全体への報告、教科担当者による現状分析はその後の指導を考える上でも重要。また、提出や報告で終わりでなく、その後の活用も重要である。学年は分析結果から課題を確認し、教科担当者は分析結果をその後の指導に活かしてほしい。さらには教科会議などでも模試結果をもとにした指導法などの検証をして欲しい。

本年度方針	<p>◆愛校心をもって、積極的な広報活動</p> <p>◆建学の精神、学校目標、努力目標、教育実践と密接に連携していく</p>		
具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
学校案内・ポスター・願書	B	例年よりも早めに作成準備を始めたが、新コースにおける内容の掲載との兼ね合いもあり、業者との校正にじかんがかかり、夏の私学展の始めに間に合わなかった。見積もり発注の手順を詳細に確認する。	説明会・入試日程に関する調整後に本格的に開始する業務になるが、今年度中に新コースの特徴の掲載を含め作成の準備を進めている。費用対価も考慮しつつ、早めに準備をしていくことを意識していきたい。また、生徒作成の学校PRの資料も作成していきたいと考えている。
学校・入試説明会(本校)	B	6月・10月・11月の3回実施。2回目以降も講座体験。生徒会・生徒による説明・学校案内など直接体験に関わる部分は非常に好評であった。直接体験によるプラスイメージは大きい。今年は新コースに関わるPRが出遅れた。	昨年同様、一方的な説明PRに終始せずに直接体験がしてもらえるようなイベントにしている。4・5年生対象とした自由研究の講座(説明会とは別日程)等も実施していきたい。とにかく学校に来てもらうための取り組み(新聞広告、チラシ、グッズなど)も同時に行っていく。新コースに関わるPRも確実に行う。
塾訪問	C	広報部としての活動は少なさは否めなかった。実施(主に4・5月、8月・9月・10月)地域を考慮して担当者も固定しつつある部分もあるが、効率的に回れるよう考えていきたい。管理職には入試後も含めて時期を問わず、訪問していただいた。個人塾、個別指導塾などの個別の依頼にも積極的に参加した。この訪問が最後の1人を積み重ねる重要な活動であった。	他校の塾周りに関わる差があった。管理職には定期的な訪問は行ってもらっているが、定期的な訪問(資料配布)だけでなく、受験生の情報収集と時期に応じた訪問(説明会前・面談・出願前・入試後など)それに個別に直接対応していく細やかさも必要。各塾の個別の対応も受験生獲得の重要。1人の情報を大切に活動する活動を心掛ける。
新聞広告等	B	朝日新聞1回、毎日新聞2回・中日新聞2回(私学フェス広告含む)で説明会の案内などを行った。新聞広告を見て参加頂いた方もいるが、費用・内容を含めて3年制とより連携して効果を高めていきたい。塾からのPR以外の説明会への重要な参加告知のツールとなっている。	掲載時期と内容と目的を明確にして、費用対価も考えて実施していく。新聞社毎の企画も年によって様々ではあるので、3年制と協力して行っていきたい。広告ではなく、校内活動の記事は大きな広告効果があるため、新聞社等に積極的に記事のPRも行う。
私学フェスティバル	A	昨年に続き、桑名・鈴鹿・松阪で7・8月に愛知(名駅)で9月に実施。名張の塾主催の合同説明会にも参加した。私学受験者の掘り起こしという点では重要なイベント。昨年とは異なり、各私学の担当者による打ち合わせも行い、生徒による発表等も取り入れることができた。	私学としての受験者の掘り起こしは必須と感じている。この部分では県内外問わず、私学の横の協力を強めていく必要がある。今年は担当者による会議をもち、生徒による発表等を行うことができた。最終的には業者主導から、幹事校を設定して各校(自分達)で進めていける方向にもっていきたいと考える。
説明会(塾対象)	B	今年度も多くの先生に参加いただいた。様々な場面で「見せる」ことはやはり必要。本校の改革や新コースの説明は概ね理解を頂いたが、やはり新コースの詳細内容と取り組みに説得力をもたせるデータの提示は必須と感じた。	教育方針、取り組みに関しては概ね理解は頂いて応援(鈴鹿ファンでいてもらっている塾もある)はしていただけたが、データ、結果というものがついてこそその厳しい意見(外の意見は内の認識よりもよりシビア)も頂く。送った生徒がどのように伸びているのかを報告する場でもあるので、取り組みの結果
説明会(各塾主催)	A	やはり現場の教師からの説明は好評で、よかったように思う。今年は大手塾でも教室レベルでの案内や入試直前の保護者に向けた説明依頼にも積極的に参加した。やはり、塾・受験生に受けてみよう等の興味をもってもらい、惚れてもらうためには今後このような細かい活動はより重要になると考える。	塾の教室に向き生徒対象の場合でも、学校のベルホールで保護者のみの場合でもより現場に近い声を届けると好評を頂ける。次年度以降も先生方に協力を依頼して進めていきたい。今後は、各塾の細かいニーズにも対応し、入試前に1人1人の受験生の情報を得るようなきめ細かい活動につなげていく必要がある。
出版社・塾・アンケート	C	対応が遅れた場面が数多くあった。数が多いので協力を依頼する場面も必要。	事務的な処理であっても、個人での対応だと遅れが出る場面があった。資料など共有できる場面では今年度と同様、進路や3年制と協力してやっていきたい。
入試業務	B	運営は教務主導で行ってもらっている現状である。入試に関わる変更点の外部発信や配慮を必要とする生徒の対応、塾への対応などは管理職にかなりの部分でフォローをして頂いた。広報としては、控室の整備など、入試当日も鈴鹿の魅力が発信できる貴重な機会ととらえて、保護者への対応を含めて、入試当日に受験生が気持ちよく受験できる要素を模索していく。	昨年年同様、入試問題、試験当日の受験生への対応や保護者への対応も大きな広報活動の担うものとして改めて感じた。説明会等でも入試当日の説明を行い、不安を少なく出来たことは好評。入試当日の対応については教務と連携し、このような外の声も積極的に伝えて次年度に反映していきたい。
受験生増	C	結果的には昨年より受験生減。児童数減、県内私学受験者減の現状はあるものの、本校の受験者減の要因の一つではない。その中で、選ばれる学校にするための広報としてのPRの場面で取れなかった。管理職による外回りは定期的に行っていたが、広報としての戦略的な活動に至っていない。今年は新コース立ち上げに関して企画プロジェクト始め、多くの先生方に協力を頂いた。	戦略的な(ということもとにかく)要素に通うこと、個人個人に対応して広報)外回り、効果的(費用対価を含む)なグッズ・ツールの開発、鈴鹿の「売り」、医進・選抜コース」を外に発信していく必要がある。他校が広報活動に圧倒的な人とお金をかける中、鈴鹿は何もしていないと思われないように、受験生増加の可能性のあることには全て模索し、実践していきたい。結果を求められている現場であることを常に意識していきたい。
新コース立ち上げに関わる業務	B	プロジェクト会議初め、先生方の協力により新コースを立ち上げることは至ったものの、進めながら考えて行く要素も大きい。立ち上げ時同様、広報として内部の意識向上(皆で創っていく意識)を促す取り組みと外部の声も積極的に反映していく取り組みを行っている。	新コースを立ち上げることに至ったものの、取り組み内容等を明確に発信出来ず、受験生に浸透していない現状がある。次年度はコース内容を含めて生徒の実際の取り組み等、PRできる内容は今年に比べれば多い。早い段階で積極的なPRできるような準備を進めていく。特に新コースに関わる現場の先生の積極的な取り組みに協力をしていく必要がある。
現場との連携	B	説明会での講座体験や、私学フェスでの生徒の発表、イオンモールでの独自のコンサートなど新しい取り組みを広げられた場面もあったが、さらに外回りにおいて拠点の開発(習い事の教室など)も考えていきたい。広報活動だけが先走らないよう、逆に現場の取り組みも的確に外部に発信していく必要性があり、今年度同様全教職員協力が必須。説明会等では例年以上に参加だけでなく高い意識をもって協力いただいている。	昨年以上に先生方から、HR活動の資料を広報活動に役立ててくださりや学年懇談会もPRの場と認識している。といった積極的な声も頂いているのでそれらを広げる努力を一層していきたい。また、広報部として戦略的な外回りが出来ていない反省がおおいにある。鈴鹿の本気の発信は先生方の協力無くしては難しいので、協力していただける体制と準備(外回りの計画)を整えていく。小学校訪問等も在校生を大事にする取り組みの一つとして、積極的に取り組んでいきたい。

具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題や達成状況（最終評価）	最終評価の結果を踏まえて、改善点・向上
教育目標の達成に向け、学校組織が活動しやすい仕組みと体制づくり（学校が生み出す価値を高めるために。） ◆財務活動の機能を向上させる活動・・・・・・・・・・・・・・・・健全な財務体質の構築と必要な事業予算を確保するために ◆納得性の高い品質で業務を実施できる仕組みや体制をつくる活動・・・・・・・・すべての業務をアカウントビリティの観点から遂行するために ◆教育活動を滞らせることのない環境整備をすすめる活動・・・・・・・・安全で快適な教育環境を提供するために			
●財務管理体制の精度向上 ・予算・実績管理の適時・適正化 ・不要コストの徹底削減して効率的な予算配分を図る	B	●消耗品等に関する予算の実績管理は継続できた。 ●消耗品のコストカットや電気使用量の節約について、成果が得られないものがあった。	◎日常の経費（消耗品や光熱水費）は、前年度を上回ることなく、さらにコストダウンを図る工夫に取り組んでいきたい。 ◎さらに経費削減の意識を生徒・教職員にもさらに定着し、成果を引き上げる取り組みを進める。
◎安定した財務体質への改革推進 ・学校収支バランスの改善・強化 ・財務的な課題を共有化し、具体的な改革案の作成と推進を行なう	A	●人件費制度の改定をすすめ、次年度以降人件費の適正化むけた目途がついた。 ●10年間の財務将来計画を提示し、学内での共有が図ることができた。	◎次年度以降の計画に基づいた学校経営には、収入の確保（生徒数の確保）が重要課題であり、生徒数確保に向けた具体的な対策づくりに関わっていききたい。⇒奨学生制度の見直し等
●学校組織の予算管理機能向上 ・教育現場との連携強化 ・固定費圧縮の推進 ・魅力的な教育を推進するための予算確保を拡充する	B	●おおむね従来の委員会の役割は維持できた。 ●年度後半、予算委員会の活動が停滞するようになった。 ●昨年まで停滞していた事業を、本年度において進めることができた。	◎委員会活動の継続と機能強化（無駄遣い削減）を図る ◎事業計画作成上における計画性と予算額の適正化向上させる対策を講じる ◎事業推進のバックアップ強化による停滞事業を減少させる
●適正で安定した人員配置計画の整備 ・安定した業務品質が保てる ・人員体制作りを強化する	C	●担当業務のローテーションは予想よりも早く業務に定着することができている。 ●法人業務の具体的なイメージができていないため、事務の体制作りが進んでいない。	◎担当業務のさらなる習熟度アップを推進する ◎現体制の中で、新しく法人業務を含めた業務体制を早期に整備する
●業務に対する目的意識と改善意識の向上を図る ・業務目的を意識したマネジメントを向上させる ・合理化と品質向上のバランスを適正化する	C	●事務職員の自己目標について進捗は依然として各自にまかせの状態が続いている。 ●具体的な成果も事務全体で実感できていない状態にある。 ●個々の事務職員の向上心は高い状態にある。	◎自分自身で計画した目標と達成までのプロセスを事務で共有する。 ◎個別に課題を与え、改善や解決のための取り組みを促す。
●業務管理体制の整備と効率の向上化推進を進める ・時間短縮と品質向上を図る ・現状業務の削減や改善を進める ・確実に業務を遂行できる業務管理の	B	●ミーティングにおける情報共有は定着している。 ●業務削減や改善のための提案は少ない。 ●業務の進捗管理もほぼ徹底でき、遅延も少なくなっている。	◎毎週の業務管理上において、目的やテーマを意識した業務遂行を意識づける ◎現状業務の削減や改善を進める（再）
●施設設備の保守管理体制の強化 ・施設管理業務を戦略的に進める	B	●維持管理の計画性は年々向上しており、タイミングよく実施している。 ●校内での情報共有については、都度の報告にとどまり、年間計画の見える化は停滞している。	◎年間における維持管理の見える化推進する ◎未管理施設設備の点検及び保守管理を進める
●施設整備拡充計画の策定・実行 ・施設整備の具体的な計画の策定を進める	D	●校内での検討が進んでいない。 ●防災備蓄計画については、本年度計画を提案し審議が進められるようになった。	◎防災計画のさらなる整備を進める（備蓄計画・避難計画・訓練計画ほか） ◎施設整備の具体的な計画の策定を進める（再）（10年計画の策定）

平成24年度 学校評価（保護者対象アンケート）結果一覧 [7月実施]		満足度A	満足度B	満足度C
		そう思う	ややそう思わない	そう思わない
教育目標	1 建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐくまれている	69	16	6
	2 学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されている	67	19	8
学校の特色	3 「真の学力の養成」「たくましさの追求」「人間愛の重視」の方針のもと、自立した人間をめざしている	68	20	6
学習指導	4 6年間を通じて自ら進んで勉強する姿勢がはぐくまれている	69	21	7
	5 知的好奇心を刺激して、本当の学力を身につける鈴鹿独自の教育スタイルが実践されている	65	21	8
	6 毎日中等部は朝の10分間読書で、一人ひとりの思考力等の能力向上と高等部はリスニング・小テスト等で学力向上を目指して基礎的な力をつけている	67	19	8
	7 生徒の現状にあわせた学習進度で高校受験を意識せず6年間で幅広く学べる学習スタイルになっている	65	21	8
	8 道徳・人権学習の時間などを通して、いじめや差別をなくし、一人ひとりの人権や個性を大切にされた教育が進められている	64	18	8
進路指導	9 生徒一人ひとりが希望する進路が保障されている	48	25	10
	10 学年に応じた進路指導が充実している	63	18	10
	11 コース・科目選択の説明が十分になされている（高等部）	67	23	6
	12 大学入試情報や入試の動向などがすみやかに適切に伝わっている（高等部）	63	24	10
生活指導	13 生徒が基本的な生活習慣や社会のルールやマナーを身につけられるような指導が行われている	58	27	10
	14 一人ひとりの生徒の様子をいろいろな方法(中等部の日記、高等部の個別面談など)で常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	72	17	6
	15 生徒も教職員もよくあいさつができて感じがいい	72	18	6
学校生活	16 安全・安心な学校生活のために教職員は努力してくれている	82	10	4
	17 教職員は保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	78	15	4
	18 鈴青祭・研修旅行・弁論大会・合唱コンクールなど学校行事が有意義に実施されている	83	11	5
教育環境	19 生徒にとって、安心・安全・快適な施設・設備である	77	15	5
	20 清掃が隅々までゆきとどききれいな学校である	66	20	10
家庭との連携	21 学校からの情報はスクールネットや通信等で十分に保護者に伝わっている	70	21	6
	22 家庭で子どもの友達関係や学校での様子など良く把握できている	68	22	6
	23 PTA活動が活発で参加する意義がある	57	25	6
満足度	24 生徒が毎日元気よく楽しそうに学校へ行っている	88	7	4
	25 子どもを入学させてよかった	83	10	4

割合(%)

学校関係者評価 [保護者対象]		満足度A	満足度B	満足度C
平成24年12月17日～20日実施		さう思う	ややさう思わない	さう思わない
教育目標	1 建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐまれている	68	15	17
	2 学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されている	67	18	14
学校の特色	3 「真の学力の養成」「たくましさの追求」「人間愛の重視」の方針のもと、自立した人間をめざしている	68	17	15
学習指導	4 6年間を通じて自ら進んで勉強する姿勢がはぐまれている	67	20	14
	5 知的好奇心を刺激して、本当の学力を身につける鈴鹿独自の教育スタイルが実践されている	66	19	14
	6 毎日高等部は朝の10分間リスニング・小テスト等で学力向上のための基礎的な力をつけている	68	17	14
	7 生徒の現状にあわせた学習進度で高校受験を意識せず6年間で幅広く学べる学習スタイルになっている	67	20	13
進路指導	8 道徳・人権学習の時間などを通して、いじめや差別をなくし、一人ひとりの人権や個性を大切にされた教育が進められている	66	18	16
	9 学年に応じた進路指導が充実している	69	19	13
	10 科目選択の説明が十分になされている	70	22	9
	11 進路学習や説明会等わかりやすく行われている	68	20	12
生活指導	12 大学入試情報や入試の動向などがすみやかに適切に伝わっている	62	20	19
	13 生徒が基本的な生活習慣や社会のルールやマナーを身につけられるような指導が行われている	60	25	15
	14 一人ひとりの生徒の様子をいろいろな方法(個別面談など)で常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	71	16	12
学校生活	15 生徒も教職員もよくあいさつができて好感が持てる	71	18	11
	16 安全・安心な学校生活のために教職員は努力してくれている	79	12	9
	17 教職員は保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	77	13	10
教育環境	18 鈴青祭・研修旅行・弁論大会・合唱コンクールなど学校行事が有意義に実施されている	82	12	6
	19 生徒にとって、安心・安全・快適な施設・設備である	73	18	9
家庭との連携	20 清掃が隅々までゆきとどききれいな学校である	58	24	18
	21 学校からの情報はスクールネットや通信等で十分に保護者に伝わっている	70	20	10
	22 家庭で子どもの友達関係や学校での様子など良く把握できている	64	24	12
満足度	23 PTA活動が活発で参加する意義がある	52	27	21
	24 生徒が毎日元気よく楽しそうに学校へ行っている	83	10	7
	25 子どもを入学させてよかった	76	12	12

高等部のみ

※数値は、割合(%)
 ※第6学年は、実施せず